

令和2年度岩手県立美術館協議会議事録

1 日 時	令和2年12月10日(水) 10:00~11:58
2 場 所	岩手県立美術館 会議室
3 出 席 委 員	石塚庸子、伊藤真紀子、内村弘子、大衡彩織、長内 努、菊池房江、熊谷和浩、佐藤あい子、中瀬淑子、藤代伸子、藤原 哲(以上11名)
4 欠 席 委 員	阿部 徹、岩館智子、菅しのぶ、樋下照男(以上4名)
5 (県側出席者) 生涯学習文化財課	藤原安生総括課長、佐々木義秋生涯学習担当課長、川村 信主任主査、勝馬田彩音主事
6 文化振興事業団	山崎 隆事務局長兼総務部長
7 美 術 館	藁谷 収館長、小笠原 誠企画参事兼副館長、田中芳樹総務課長、吉田尊子学芸普及課長、加藤俊明上席専門学芸員、土谷文子主任専門学芸調査員、吉田秀幸主任主査、杉田友視主任

1 開 会	事務局より、委員15名のうち11名の出席により、岩手県立美術館管理運営規則第9条第2項に規定する委員の半数以上の出席という要件を満たしている旨報告された。
2 委 員 紹 介	(出席者名簿により自己紹介)
3 職 員 紹 介	(出席者名簿により出席職員を紹介)
4 館 長 挨 拶	藁谷館長より挨拶があった。(挨拶内容省略)
5 議 長 就 任	岩手県立美術館管理運営規則第8条第2項の規定により、議長は会長が務めることとされていることから、以後の議事は、石塚会長が進行した。
6 議 事 (1) 説明事項 説明事項 ア 【質疑応答】	「岩手県立美術館の概要について」(資料1) 事務局から資料1により説明を行った。(説明内容省略) (特になし)
説明事項 イ 【質疑応答】	「令和元年度美術館協議会における主な意見・要望と対応状況について」(資料2) 事務局から資料2により説明を行った。(説明内容省略)
◆ 石塚委員(会長)	アートカードの販売の予定はないのか。
◆ 美術館	販売は考えていない。取扱いやすいのがはがきサイズということであり、著作権処理などが必要なため販売は難しい。
説明事項 ウ 【質疑応答】	「令和2年度事業実施状況について」(資料3) 事務局から資料3により説明を行った。(説明内容省略)
◆ 長内委員	企画展は欠かさず観覧しているが、最近、知人から常設展が面白かったという感想をもらったので、今期の常設展第3期を観てきた。今までのアプローチと違って、ただ飾るのではなく、自由に触れるという試みは、これまでになかった面白い企画だと思った。特に、素材そのものだけを展示するのではなく、あくまでもコレクションに形を寄せるという準備に時間が掛かったと思う。あまり表には見えないが、相当の努力をされたと感じたので、今後の企画も違った形で提示していただきたい。

◆ 美術館	質感、素材を味わっていただきたいということで、コロナ禍の状況の中、ハンズオン展示をすることに対し、色々議論したが、こういう状況ではあるが対策を万全にしながら実施していこうとことになった。素材の準備についても、館挙げて取り組んだ結果が説得力のある展示となったと思っている。実際、作家にもお願いし、サンプルを提供していただくなど、スタッフの思いが伝わる展示となっている。
◆ 藤代委員	第3期展示も良いが、第1期、第2期も良かった。友の会の会員からは、常設展示が良いという声を多く聞く。この頃、自由度が凄い。意外な組み合わせの展示など、見応えがあった。今後、コレクション展示と名称変更することのだが、広報の仕方も一般の方に分かりやすいチラシの作成やネーミングの付け方などを工夫すれば良いと思う。見せ方次第で常設は良い展示になると思う。
◆ 大衡委員	常設展のアピールをもっとしても良いと思う。展示を誰が企画したか分かるような担当者の名前を表記し、コメントを出せば、親しみを持って観てくれるかもしれないと感じた。企画展についてだが、駒形克己展については、企画者の展示デザインのセンスがすごく光っていたと感じた。東山魁夷展については、宮城県美術館と同じ展示構成なわけだが、この建物の展示室の広さをいかに生かすかで、同じ内容でありながらイメージがかなり違ってくるので、面白く拝見させてもらった。企画・常設展示とも学校教育の場でも活用できる内容なので、学校現場の教員にも広く知っていただきたい。また、説明の中で観覧者数や参加者数の話が出て、良く理解できた。目標を達成したのは良かったと思うが、人数だけではなくて、美術館としての評価目標を示していただきたい。
◆ 美術館	ご指摘のとおり数値だけでは判断できないし、本質は見えてこないと思う。展覧会については、誰に来てもらいたいかなど、内容を詰めて提示できれば良いと思っている。今の段階では回答できないが、意見内容は良く理解できた。
◆ 伊藤委員	今年はコロナ禍の影響が相当あったと思う。臨時休館と2本の企画展の中止は、辛かったと思う。その中でも9月からは駒形克己展を開催するなど、美術を親しむ場を提供してもらったことに県民の一人として感謝するところである。東山魁夷展については、自分の周りでは行ってみたいという声を良く聞く。ただ、コロナが怖くて中々足が向かないと、高齢の方々から聞く。色々対策を講じていると説明があったが、不安に思っ足が向かないという状況もあるので、もう少し広報する必要があると思う。
◆ 美術館	ご覧いただいたとおり、対策については最善を尽くしているものと考えている。安心して来館いただけるよう広報を展開していきたいと考えている。
◆ 石塚委員(会長)	安らげる空間になっていると思う。感染対策も厳重にされていて、担当者が付いて検温や連絡先の記入などを対応していることに安心を与えられた。このことについて、広報した方が良いと思う。
◆ 菊池委員	今、子供たちの行動が制約されている中で、親として子供とどのような体験をすべきか模索している時に、アートデオヤコやアートデカゾクは、小さい頃から芸術、美術、色々なものに触れるなど、子供の頃からの習慣付けは、大人になってからも大事に育てていくものなので、この機会に美術館が安全で安心、感性を育てていく場所であることを広く知って頂けたら良いと思う。広報の仕方を考えていただきたい。
説明事項 エ 【質疑応答】	「観覧者数の推移について」(資料4) 事務局から資料4により説明を行った。(説明内容省略) (特になし)

説明事項 オ 【質疑応答】	「令和3年度事業実施計画について」（資料5） 事務局から資料5により説明を行った。（説明内容省略）
◆ 佐藤委員	アウトリーチ事業について、出前授業してもらったが、来年の東北造形教育研究大会で鑑賞授業を実施することになっている。県立美術館の職員に作品を観る目を育ててもらいたいと考えて出前授業を実施してもらった。子供たちが自分たちなりの見方に自信を持てるようになった。担任が授業参観でも出前授業と同じように実施したことで、保護者も作品を観ることはとても楽しいことと、刺激を受けて喜んで帰られた。できれば、引続き県立美術館と連携していきたいと考えており、県立美術館の所蔵作品の中から鑑賞作品として取り上げて、東北各県の教員にも見て貰えるような授業を作り上げていきたいと思っている。大分前になるが、県立美術館で開催された油絵講座で刺激を受けたし、参加して楽しかったので復活してほしいと思っている。
◆ 美術館	今の件については、昨日、担当から報告を受けた。美術館としても協力できることは実施していきたい。
◆ 藤原委員	来年3月で震災から10年過ぎることになる。震災10年を過ぎることで、関連事業について来年度の企画展には盛り込まれてはいないようだが、常設展や特別展示などで考えていることがあれば、説明いただきたい。
◆ 美術館	企画展については、震災を意識したラインナップを組んでいる。4本目の「本城直季展」がそれであり、写真家なので震災後に東北に足を延ばされて撮影されたシリーズの作品も初公開になるなど、意識した部分もある。震災と美術というような大きいテーマを設定するのは難しいので、特段そのようなテーマでは組んではいないが、10年という節目から意識はされるものの、前面に出す展示はすごく難しいと思っている。
◆ 美術館	県から趣旨や具体的な指示があれば対応できるのだが、現状では企画展のラインナップの中で意識しながら進めたいと考えている。
◆ 石塚委員(会長)	20周年と絡めて考えることはできないのか。
◆ 美術館	20周年としての位置付けは、現代美術として世界でも評価の高い「菅木志雄」氏の展覧会を企画している。岩手の美術と言えば、近代美術が強いようなイメージもあるが、現存の作家が活躍しているということを発信していきたいという考えから20周年記念と位置付けたものである。震災の関係では、当館は陸前高田市で所有していた美術品を預かっており、文化財レスキューを終了した後も常設展示をさせていただいた。
◆ 大衡委員	20周年を迎えるに当たってお願いしたいことがある。それは、どんな行事に何人参加したか、どんなことをやったかだけではなく、20年間普及活動が続いているということによって、参加者がどのような影響を受けたかを目に見える形にすることは難しいとは思いますが、20年間の普及活動の成果をまとめたうえで示していただきたい。
◆ 美術館	意見のとおりだと思う。20年間の活動の検証は、是非実施したい。
◆ 伊藤委員	「菅木志雄」展が20周年記念の冠が付いたことは素晴らしいことだと思う。岩手県出身の作家で現在活躍中の作家にスポットを当てたことは、とても有意義なことだと思う。これからも県内美術を盛り上げるような取組みを期待したい。
説明事項 カ 【質疑応答】	「令和3年度企画展概要について」（資料6） 事務局から資料6により説明を行った。（説明内容省略）

◆ 藤代委員	岩手県ゆかりの作家という観点から企画もコレクションも充実していると思う。子供たちが、なかなか美術館に足を運んでくれないという資料の説明があった。友の会内部でも学生、児童の料金を無料にできないのかとの意見も出ている。20周年という節目に、岩手県という枠にとらわれなくても、子供たちが気軽に来れるようなシンボルを選んで設置してほしい。
◆ 美術館	この意見は収集に関わることなのだが、岩手県立美術館としては近代から現代の岩手県出身、ゆかりの作家の収集を大きな柱として取り組んでいる。したがって、(親しみやすく人気のある作品をシンボルとして据えるということは、)他館のように簡単にできないという実情にある。このことは、岩手県立美術館としてのコレクションの拡充という課題があるので、今後検討していきたい。
◆ 美術館	岩手県にゆかりのあるという収集の解釈を拡げるとか、子供たちが楽しいと思ってくれるような作品を収集するなど、検討していきたい。
◆ 長内委員	「菅木志雄」展は非常に楽しみである。通り一遍の解説ではなくて、県民目線で説明するのは難しいと思うが、県民に菅さんの良さを広めるような工夫をしてもらうなど、可能であれば小学生の鑑賞教育的な取組みをお願いしたい。
◆ 美術館	馴染みがない作品が多いと思うので、(収集については、)まずは県の職員に理解してもらうのが先決だと考えている。
◆ 石塚委員(会長)	今の話は、美術館が郷土の作家を育てているという印象を持った。また、それを一生懸命応援したいし、皆を引っ張って行けるものであればいいなと思った。
(2) 協議事項 【質疑応答】	「岩手県立美術館の運営について」事務局から情報提供は特になし
◆ 熊谷委員	美術館を運営していくうえで、リピーターの集計は必要だと思うがどうか。本校の教員から青森県立美術館の鑑賞手帳の提供があったので、本日持参したが、このようなものがあれば、単発で美術館に来るという発想ではなくて、積極的に美術館で色々な企画を観ながら美術に親しむことも可能なのかと思う。この類のものは当館にあるのか。また、他館の取組みなどに関して情報収集は行っているのか。
◆ 美術館	他館からの取組みなどの情報収集は、継続的に行っている。また、定期的に資料の送付もある。リピーターについては、数字としては捉えにくいですが、常設展が充実している館でもあるので、松本峻介を見に来た、舟越保武の作品に会いに来たという、繰り返して来館される方が多い。
◆ 熊谷委員	むしろ、このようなことは教育現場が作成して、鑑賞を進める教育の一環としてすべきことであると思う。特に高校生などが、このような形に残るものが収集として自分の中で出来ていくことが動機付けとしては、他の取組みとして良いと思いついたものである。 県内では美術教育を受けられない機会の高校もある。学校現場に向くことは難しいという説明は理解できる。現場の教員が美術館で勤務していることは、全县に美術を普及させることは必要だと思うが、鑑賞者の育成の観点からも人材育成からもお願いしたい。
◆ 美術館	観賞手帳については、将来的にはデジタル化したもので対応できないかを検討している段階である。人材育成については、簡単ではないという認識でいる。
(3) その他	「その他」について (特になし)
(4) 閉会 ◆石塚会長	以上をもって本日の協議を終了する。(終了)